

応用数学科

人材養成および教育研究上の目的

応用数学科は、数学とそれに関連する分野の探究を通して社会の発展と福祉に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、単なる数学の知識の蓄積にとどまらず、柔軟な発想力、豊かな創造力及び論理的な思考力を備え、数学の学習を通して社会人として直面するであろう様々な問題の本質を見極め解決する力及び国際性を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

応用数学科は人材養成・教育研究上の目的を達成するために

1. 数学の基礎的学力を身につけている人
2. 数学や情報科学の理論およびその応用に興味・関心を持っている人
3. 幅広い教養と国際性を身につける意欲を持つ人

の入学を求めています。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

応用数学科のカリキュラムは次のように編成しています。

1. 1年次前期科目では高校数学との接続を重視し、後期科目により2年次以降の専門的な数学・情報教育への基礎を作ります。
2. 2年次までに基礎的教育を終え、3年次で現代数学への入門的教育を行います。
3. 4年次は、学生の希望する分野の専門的教育を中心に行います。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

応用数学科ではその判定においては、構成的かつ体系的に現代数学を学ぶ能力を特に重視し、数学や情報科学の理論を理解しそれを応用するための能力・知識の習得をもって、学位を授与します。

